



## APN ACL のサポート

- [マニュアルの変更履歴](#) (1 ページ)
- [機能説明](#) (1 ページ)
- [トラブルシューティング](#) (2 ページ)

### マニュアルの変更履歴



(注) リリース 21.24 よりも前に導入された機能については、詳細な改訂履歴は示していません。

改訂の詳細	リリース
初版	21.24 より前

### 機能説明

現在、CUPS (21.19.x より前のリリース) では、APN レベルの ACL 定義が UP で設定されています。

この機能により、CP で設定された ACL は UP にプッシュされます。この機能を使用することで、すべての UP ノードで ACL 定義を個別に設定するコストや労力を削減できます。



- (注)
- このリリースへのアップグレードに進む前に、CP 設定で APN ACL を確認します。
  - CP と UP の両方で同じコンテキスト名が設定されている必要があります。CP は、UP よりも多くのコンテキストを持つことができます。コンテキスト名が一致しない場合、それぞれの ACL は UP でドロップされます。
  - CP と UP の両方で APN ACL を定義しないことを推奨します。ただし、必要な場合は、競合を回避するために、UP と CP の ACL 名を互いに異なるものにする必要があります。
  - 下位互換性を確保するために、UP 設定でローカルに作成された ACL が優先されます。
  - APN が特定のユーザープレーングループに属している場合、同じ APN の ACL は、同じユーザープレーングループに属する UP にのみプッシュされます。
  - 最大 64 のコンテキストが許可され、コンテキストごとに最大 16 の ACL が許可されます。
  - 複数の APN が同じコンテキストで ACL を共有できます。
  - ACL の変更内容は、新しいセッションにのみ適用され、進行中のセッションには適用されません。
  - IPv6 の ACL で **deny any** ルールが設定されている場合は、ルータアドバタイズメント (RA) とルータ要請 (RS) メッセージを ACL で明示的に許可する必要があります。

## トラブルシューティング

ここでは、この機能の障害対応について説明します。



- (注) この機能は、デフォルトでイネーブルにされています。

### show コマンド

ここでは、この機能の show コマンドについて説明します。

#### **show user-plane-service ip-access-list name** *access list name*

このコマンドは、ユーザープレーンの ACL ルールを表示するために使用されます。

#### **show user-plane-service pdn-instance name** *apn name*

このコマンドは、ユーザープレーンの apn のアクセスグループを表示するために使用されます。

#### **show srp statistics**

このコマンドは、SRP を介した APN ACL の送信、受信、および廃棄されたパケット数を表示するために使用されます。

**show demux-mgr statistics sxdemux all**

この show コマンドは、CP から送信された PFD ACL\_INFO パケット数を表示するために使用されます。



## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。